

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-553
研究課題名 小児腎悪性腫瘍における治療、再発の検討
研究期間 西暦 2014年 3月（倫理委員会承認後）～ 2019年 2月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（過去のカルテ、画像情報 ）
上記材料の採取期間 西暦 1967年 1月～ 2013年 12月
意義、目的 小児腎腫瘍の内、ウィルムス腫瘍（腎芽腫）は最も頻度の高い腫瘍で、日本で年間100例程度の患者が発症していると考えられている。近年、ウィルムス腫瘍の予後は治療法の進歩により改善し約85%の患児に長期寛解生存が得られるようになった。しかし再発ウィルムス腫瘍の予後は依然として不良で3年生存率は10%前後である。ウィルムス腫瘍の初回治療で再発を減らすこと、また、再発時に有効な治療法を開発することは今後のウィルムス腫瘍の予後の改善に必要な課題である。過去のウィルムス腫瘍の治療法の変遷、腫瘍の病期、組織型等の予後因子と再発率との関係や、再発治療の方法とその転帰について調査を行うことにより、腫瘍再発予防や再発治療の開発に有効な手がかりを得ることができる可能性がある。
方法 1967年1月から2013年12月までに当院で治療を行ったウィルムス腫瘍61例について病期、組織型、治療法について診療録から後方視的に情報を得、治療法の変遷に伴う生存率、再発率の変化を検討する。さらに再発の有効な要因を予想する。10例の再発症例のうち、再発治療法に関する情報を得ることができた7例について再発治療法の検討を後方視的に行い、有望な治療法を探る。
問い合わせ・苦情等の窓口 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学小児外科 風間理郎 Tel: 022-717-7237 Fax: 022-717-7240 e-mail アドレス: kazama@ped-surg.med.tohoku.ac.jp